

協会だより

〔東京支部〕

1 新入寮生の土佐寮紹介

『上京してからの暮らし』

東京大学1年 中村 多緒

私が上京してから早くも半年が経とうとしています。始めのうちは親元を離れて暮らしていくことや、新たな人間関係を作っていくかどうかへの不安や心配がありましたが、それも杞憂に終わり、今は楽しく毎日を過ごしています。これも土佐寮での生活を選んだおかげであるといえるでしょう。そんな土佐寮について、お話ししようと思います。

土佐寮は私と同じように高知から上京してきた学生たちが集まる寮なので、交友関係を作りやすいです。また些細なことと思うかもしれませんが、基本皆土佐弁を話しています。高知にいる時は当たり前で意識することも無かったのですが、東京に来て周りが皆標準語を話している生活の中では、土佐弁を聞くだけでも安心感を覚えることがあるのです。ただ同郷出身といっても自分とは全然違う考え方を持っていたり、またいろいろな大学に通っている学生がいるので、自分の考え方の幅を広げることができます。故郷への懐かしさを感じながらも新たな考えに触れられることは、土佐寮ならではの良さだと思います。

また、土佐寮では朝夕のご飯を出してくれます。毎食手作りするのには面倒で、かといって外食ばかりだと栄養面でも金銭面でも問題があるでしょう。その点、寮のご飯はしっかり栄養バランスが考えられています。そのおかげもあってか、上京してからまだ一度も病気になったことはありません。また、寮の隣には井の頭公園があり、休日などには寮の友達と運動をしたりもします。大学生になると不健康な生活を送ると考えがちかもしれませんが、土佐寮では健康に過ごすために必要な要素が揃っています。

寮生としての義務もそれほど多くはなく、月に1、2回の風呂当番と、半年に一度開かれる総会に出席することだけです。それ以外は全て自分の好きなように時間を使えるので、サークル活動やバイト、自分の趣味などに没頭することができます。この自由度の高さも土佐寮の魅力です。

さらに、土佐寮は吉祥寺駅から徒歩15分ほどの立地なので、気軽に商店街や電車に乗って渋谷や新宿などに行くこともできます。自由を謳歌したい大学生にとってはこの立地の良さも嬉しいものです。

ここまでで伝えたように、土佐寮には多くの利点があります。これを読んでいる人の中で、東京の大学に進学したいけど、一人暮らしや全く新しい環境での人間関係が不安だという人がいましたら、ぜひ土佐寮を選択肢の中に入れてもらえればと思います。

『土佐寮について』

東京農工大学1年 渡辺 優悟

東京での新生活において土佐寮は自信を持ってお勧めできる選択肢の一つです。ここでは土佐寮の魅力について少しでもお伝えできればと思います。

土佐寮での寮生活のメリットを三つ紹介したいと思います。

一つ目は立地の良さです。土佐寮は吉祥寺にあり、飲食店や衣服、家具の販売店、コンビニ、スポーツジム、格闘技の道場に至るまで何でもあるためとても生活しやすいです。周りには井之頭公園があるため散歩やランニングなどのちょっとした運動も気軽にでき、静かな自然は勉強や読書に集中しやすい環境になっています。また、吉祥寺駅は都心へのアクセスも非常によく、新宿には吉祥寺駅から20分ほどで行けます。

二つ目は寮内でコミュニティーを持てることです。大学内だけではなく寮でも友達を作ることができるため、より楽しい生活を送ることができるのではないのでしょうか。

三つ目は一人暮らしに比べてやらなければならないことが少ない点です。土佐寮では食事が朝夕二回提供されます。自分で用意片付けすることなくバランスよくおいしい食事を食べられるのは時間的な面でも健康的な面でも大変ありがたいです。風呂掃除は当番制なため、月一回の頻度で大丈夫です。私は、休みの日は部活動や、スポーツジムでの筋トレなどをして時間を過ごしています。井之頭公園で寮の友達とバレーボールで遊んだり、一緒にご飯や銭湯に行って過ごすときもあります。このような時間の過ごし方ができるのも寮の立地や環境あってこそだと思います。

土佐寮には、前時代的な上下関係の厳しさやしきたりなどが一切なく人間関係の面でも過ごしやすい場所だと思います。なれない場所での新生活スタートにあたり同郷の人間と安定した生活の基盤を作るという意味でも土佐寮は適している場所だと思うのでぜひ入寮を選択肢に入れてほしいと思います。

2 在寮生の土佐寮紹介

『鶏口牛後』

明治大学 4年 百田 彩人

大学生活を通して、自分程の成長をした学生はそうそういないと自信を持って言えます。高校生活が自身の短所を深く認識する期間だったとすれば、この4年間は自分の長所に気づき、活かし方を知る期間でした。得た教訓は数え切れませんが、月並みな言葉で「鶏口牛後」に尽きると思います。

経済学部では、ミクロ経済学に登場する数学の理解について、友人から頼られました。めっぽう強くはないものの、同級生には受験に使っていない学生が多く、自分にとって理解しやすい速度で授業が進みました。結果、技術的な障壁に躓かず理論の本質を吸収できたと思います。

所属した麻雀サークルは入会した当初、コロナ禍の縮小から抜け出せずにいました。しかし、立候補一名で自動的に代表となった私が、新歓キャンペーンなどを実施したところ、20名だった部員が100名まで増加しました。目的を明確に定めると、幹部たちは綿密な計画のもと積極的に協力してくれたのです。組織に不足していたのは「言い出しっぺ」だけでした。文科系のサークルで、穏やかな性格の部員が大半だったからでしょう。

寮の友人たちは、私の慢心を抑制してくれる存在でした。生活を共有する中で、人生観や哲学について議論を重ね、意見を得ました。地域や環境の異なる学生と深い関係になれたのは土佐寮に住んだからこそであり、多様な価値観に触れることで新たな視野を獲得できたと感じています。

就職活動では、中堅のIT企業を中心に選考を受けました。アプリケーションの設計や開発が成長分野かつ自分の得意分野であろうというのが第一の理由です。加えて、コミュニケーション能力が個性として活かせると考えたからです。内定者懇親会でも、同期や社員の方と楽しく話すことができ、職場の良い人間関係を予感できました。

一般に「鶏口牛後」という言葉は、人の絶対的な優劣を前提に使われます。しかし私は、集団の中で活かせる相対的な能力のことだと考えています。凡庸な能力しか持っていない私ですが、大学生活では様々な場面で存在感を発揮し活躍することが出来ました。その理由は、集団内で個性を持っていたからです。金賞を持っている人は稀有ですから、複数の銀賞や、銅賞を組み合わせることが組織に貢献する現実的な方法となるでしょう。

周囲の方の支援や与えて下さった刺激によって、今の私があります。不得手は未だ数え切れないほどありますが、武器もたくさん得ました。社会での働きを以って、できる限りの恩返しができればと思っています。

3 卒寮生の思い出

『寮で過ごした4年間で教えてくれたこと』

平成28年3月卒業 宮治 宏毅

(メッツライフ生命保険㈱)

高知県の実家を離れ、上京して4年間、土佐寮で暮らした。あの4年間は、僕の人生の中でも特別な時間だったと思う。高校まで野球一筋で、毎日白球を追いかけていた僕にとって、「自由な時間」と「集団生活の規律や責任」が同時にやってきたのが、あの寮生活だった。

最初の頃は正直、寮に馴染めなかった。部屋は狭く、プライベートな時間は少ない。高知県各地から集まった仲間たちは考え方も習慣も違って、些細なことですぐぶつかることもあった。でも、夜中まで語り合ったり、一緒に食堂で食事をしたり、誰かの誕生日をみんなで祝ったりしていくうちに、次第に“家族”のような存在になっていった。

寮生活では、誰かのために動くことが当たり前になった。洗濯機を譲り合ったり、寝坊した仲間を起こしたり、体調を崩した友人のために食事を作ったり。そんな小さなことの積み重ねが、いつの間にか僕の中に「人を思いやる力」や「チームで支え合う感覚」を育ててくれたように思う。

大学生活では、勉強と並行してアパレルショップとカフェでアルバイトをした。私にとっては人生初のアルバイトであった。最初は接客に戸惑ったが、お客様と会話を重ねるうちに、「人と向き合うことの面白さ」に気づいた。服を通じて自分を表現する人、コーヒーを飲みながら誰かと語らう人——それぞれの“日常の小さなドラマ”に触れるたび、僕も少しずつ人の心に寄り添えるようになっていった。

寮での共同生活と、アルバイトでの接客経験。この二つはまるで別世界のようでいて、根っここの部分ではつながっていると思う。どちらも「人と関わること」がすべての中心にある。そこには、思いやりも誤解も、時には衝突もある。でも、だからこそ人は成長できるのだと感じた。

大学卒業後は外資系の生命保険会社で営業管理職として就職した。お客様一人ひとりの人生に寄り添い、信頼関係を築く仕事だ。土佐寮で学んだ「人と支え合う力」と、アルバイトで培った「相手の立場で考える姿勢」を胸に、今度は社会という大きなチームの一員として、自分の役割を果たしていきたい。

4年間の寮生活を思い返すと、決して楽しいことばかりではなかった。でも、喜びも葛藤も全部ひっくるめて、私にとっての“青春”だった。あの寮で過ごした日々が、これからの人生の土台になると信じている。